

## 照井亮次郎年譜

(注) 年齢は誕生日以降の満年齢

西暦	年号	亮次郎 年齢	月日	亮次郎関係年譜
1836	天保7		8.25	榎本釜次郎(武揚)、旗本の次男として江戸御徒町に生れる
1844	弘化元		12.3	父・亮蔵、稗貫郡東十二丁目村に生れる
1868	慶応4 (明治元)		1月	榎本、幕府軍海軍副総裁に就任(33才)
			9.8	明治と改元
1869	明治2		6.30	榎本、五稜郭から東京へ護送され投獄
1872	明治5		1.6	榎本、出牢
			12.3	太陽曆採用(12月3日を明治6年元日とす)
1874	明治7	0	1.14	榎本、海軍中将拜命(39才)
			6.10	<b>亮次郎、稗貫郡東十二丁目村に生れる</b>
1880	明治13	6	4月	東十二丁目村子袋小学校入学
				妹・スグ生れる
1884	明治17	10	3月	子袋小学校卒業
			4月	稗貫高等小学校入学
1885	明治18	11	12.22	榎本、第一次伊藤内閣の逓信大臣となる(50才)
1888	明治21	14	3月	稗貫高等小学校卒業
1889	明治22	15	4.1	町村制が布かれ、高木村・矢沢村・幸田村・高松村・東十二丁目村を合併し、矢沢村と称する
				横手市の兄・敬三の診療所で調剤に従事
1890	明治23	16	11.1	日本鉄道、盛岡・一関間開業
				上京し、物理学校の校外生となる
1891	明治24	17	5.29	榎本、第一次松方内閣の外務大臣に就任(56才)
			10月	宮城農学校に入学
			11月	～173日間、藤田領事代理等、メキシコ国内を調査
1892	明治25	18	5.25	藤田、外務大臣へ報告(墨国へ移住民誘導の件)
			8.8	榎本、外務大臣を辞任(57才)
1893	明治26	19	3.11	榎本、殖民協会を結成し、会長に就任
			6.22	殖民協会報告第3号の会員名簿に亮次郎の名がある
			11.27	宮城農友会幹事となる
1894	明治27	20	1.22	榎本、伊藤内閣の農商務大臣に就任(～1897.3.27)
			8.1	日清戦争勃発
			10.16	宮城農学校農科卒業
1895	明治28	21	6.27	殖民協会、墨国移住組合を設立
			8月	外務大臣、橋口農学士をメキシコに派遣(～1896年1月)
			12.1	1年志願兵として陸軍第二師団青森歩兵第五連隊に入営
1896	明治29	22	9.16	榎本代理人・室田代理公使、メキシコ農商務大臣との間にチャパス州ソコヌスコ郡エスクイントラの官有地67,000haの購入仮契約を締結
			11月	除隊
1897	明治30	23	1.29	室田総領事、榎本代理人として土地購入契約に署名
			2.17	墨国移住組合を日墨拓殖会社に改組、登記
			3.11	宮城農学校で壮行特別会に出席
			3.24	メキシコに向け横浜港出港

西暦	年号	亮次郎 年齢	月日	亮次郎関係年譜
			3.29	榎本、農商務大臣を辞任(62才)
			4.3	ホノルル着
			4.10	サンフランシスコ着
			4.19	サンフランシスコ出港
			4.27	アカプルコ港着
			5.1	アカプルコ港発
			5.10	サン・ベニト港上陸、タバチュラ着
			5.16	タバチュラ発
			5.17	ウィストラ着
			5.18	エスクイントラ着
			5.19	榎本殖民団全員、エスクイントラ着
			6月初	丁酉会社設立
			6.20	～7.15 植民地内コーヒー適地探検
			7月上旬	契約移民10名、首都に向け逃亡
			10.26	逃亡者10名のうち9名、エスクイントラ帰還
			11月下旬	榎本に植民地事情報告のため、離墨
1898	明治31	24	1.7	横浜港着
			1.27	再びメキシコに向け横浜港発
			3.6	サン・ベニト港着
1899	明治32	25	1月	丁酉会社破綻
			2.22	エスクイントラを出発し、メキシコ市へ
			3.28	メキシコ市着
			4.13	ディアス大統領夫人経営の慈善学校で養蚕を引受ける
			6月	メキシコ市を離れ、サン・ミゲル・アジェンデの農場で管理人になる
1900	明治33	26	4.6	帰南の途に就く
			4.25	エスクイントラ着
1901	明治34	27	3.4	多福岡(タフコ)農場で、高橋等と三奥組合を結成
				榎本植民地、滋賀県代議士藤野氏の手に渡る
1904	明治37	30	1.24	長男・ホセ一郎生れる
			7.6	三奥組合、規約改正し日墨殖民信用組合となる
1905	明治38	31	9.1	ロムアルダ・クルスと結婚、入籍
			9.1	日墨協働会社設立、法人とする
			9月	アウロラ小学校建設
1908	明治41	34	1.13	メキシコへの契約移民禁止
			10.26	榎本逝去(73才)
1910	明治43年	36	2.27	長女・アウロラ暁子生れる
1912	明治45 (大正元)	38	7.30	大正と改元
			9月	土地問題発生
1913	大正2	39	1.10	次男・ロベルト継亮生れる
			2月	メキシコ市で「悲劇の十日間」に遭遇
1914	大正3	40	4.11	昭憲皇太后崩御
			5.24	エスクイントラで皇太后崩御の遥拝式を挙行、38名が参加
			6.7	～6.24 土地問題のためメキシコ市を出る
			7月	第11回通常総会で、政府と土地を交換し、ペルムタと命名する件を報告
1915	大正4	41	1.12	ウィストラで政府軍と革命軍戦闘、会社損害状況報告
			2.8	アカコヤグラ村に叛徒侵入、会社被害報告
			3.12	エスクイントラのエル・ソル店襲われる
			12.7	次女・ロムアルダ・コマ生れる

西暦	年号	亮次郎 年齢	月日	亮次郎関係年譜
			12.13	妻・ロムアルダ死去
1916	大正5	42	7月初旬	長女・アウロラをサリナ・クルスより離墨させる(有馬の一時帰国に同行、8月初旬横浜港着)
			9月	日墨協働会社、貿易業に着手
			12月	コマ死去
1917	大正6	43	2.15	臨時総会、ペルムタ土地の売却のため、亮次郎の一時帰国を許可
			2.23	日本に向けチャパスを発つ
1919	大正8	45	1.3	小田島柳子をメキシコに呼ぶ
			12.27	日墨協働会社貿易部を独立させ、日墨貿易会社とする。常務取締役就任
1920	大正9	46	3月	日墨協働会社解散
1921	大正10	47		メキシコ市に滞在
1922	大正11	48	3月	小田島柳子、帰国する(4.15 横浜港着)
			4.20	日墨貿易会社常務取締役を辞し、リンコン・アントニオへ移る。薬店を共同経営する
1925	大正14	51	5.7	父・亮蔵死去(82才)
			10.20	西日辞典発行(序文は亮次郎が大正10年に起草)
1928	昭和3	54	10月	狭心症の発作あり
1929	昭和4	55	1.18	マティアス・ロメロ(旧リンコン・アントニオ)に滞在。フェリパと再婚
1930	昭和5	56	1.5	ロドリゲス・クララで薬店を開業
			10.14	亮次郎、ロドリゲス・クララで死去(56才)

[参考文献] 川路賢一郎著「シエラマドレの熱風」(2003 パコスジャパン)  
照井家歓喜寺墓碑銘

(2014.5.4掲/6.22改)